

観測史上最高の記録的豪雨

連続台風の豪雨被害続出、倉沼川流域中心に河川決壊

8月20日未明から21日にかけて接近した台風11号と北海道に停滞した温帯低気圧の停滞前線、さらに翌22日にかけて上陸した台風9号の大雨で、東川町内は8月としては観測史上最高の記録的豪雨となりました。この影響で町内の倉沼川流域を中心に河川堤防が数カ所で決壊、町道冠水による通行不能、住宅床下浸水など被害が広がりました。また旭岳、天人峡方面では、道道が決壊して天人峡温泉地区が一時孤立。宿泊客と従業員約90人が影響を受けました。天人峡、旭岳両温泉地区は、同道路沿いに敷設していた電源ケーブルが寸断して両地区全域で停電となり、旭岳温泉地区の下水処理施設の稼働が一時止まりました。(関連12頁)

台風11号の接近に伴う温帯低気圧前線の停滞の影響で、町内の雨量は20日降り始めからの24時間で、町内市街地で143.5ミリに達し、年間

の1日降水量、8月降水量ともに観測史上最高を記録しました(気象庁まとめ)。雨は21日に一度収まったものの、続いて上陸した台風9号の影響で、引き続き22日夜半から23日にかけて豪雨となり、降り始めから23日までの降水量は302ミリと平年の6・64倍に達しました(前10日間合計、気象庁記録)。

この影響で、倉沼川などの町内4河川で堤防の護岸が決壊して、住宅、田畑への冠水が発生し農作物にも被害が出ました。



3カ所のうち1カ所が流された旭岳源水公園の水汲み場(23日午前9時過ぎ)



ピウケナイ川の増水で旭岳源水公園の水汲み場と駐車場につながる連絡橋・ピウケナイ橋の取り付け部が崩落(23日午前11時半)



道路の一部が決壊した道道天人峡美瑛線(21日午前7時20分)

美瑛線の旭岳温泉方面分岐点から天人峡温泉方面に向かう約1・5キロ以上流付近で、忠別川左岸沿いの道道の路肩が約50メートル渡って一部損壊。同温泉街2旅館の宿泊客と従業員93人が一時孤立状態となりました。

翌21日午前、通行止めの同道路は仮設の通行板を設置して同日午後零時半



決壊寸前の倉沼川沿いで作業を急いでいる住宅周辺の土のう積み(21日午後6時、西10号北41の杉本宅付近(豊年橋付近から))

後復旧。23日にはさらに、ピウケナイ川の増水によって旭岳源水公園の水汲み場が一部損壊。水汲み場に通じる町道のピウケナイ橋橋げた取り付け部が崩落しました。そのため橋りょうに沿って敷設していた旭岳源水の飲料水製造工場向け導水管



倉沼川左岸の護岸決壊と水田冠水現場(23日午前9時ごろ、西8号行楽橋から下流約200メートル左岸付近)



西10号北41の杉本宅裏手の冠水(23日午前9時半、西10号北41(豊年橋付近から))

(25日現在)。道路に沿って敷設していた天人峡地区への供給用電源ケーブル、光通信ケーブルが寸断。天人峡経由で旭岳地区へ供給していた電気が止まり、両地区が停電しました。旭岳温泉地区の下水処理施設、旭岳クリーンセンターも一時停止しました(その

町では、台風11号の接近ですでに豪雨となっていた20日午後6時45分、第一、第二両コミュニティセンター2カ所に避難所を開設。自主避難を含め33人の住民が避難しました。21日、雨はいったん収まったため、避難はいったん解除。しかし23日未明になって台風9号による2度目の豪雨で第一コミュニティセンターに13人が避難しました(避難は同日午後3時まで(に終))。



土のう約400袋を積んだ倉沼川の護岸防護現場(23日午前9時ごろ、西8号行楽橋の上流右岸付近)